



ウイン・パートナーズ 株式会社 | 第1期 株主通信 Vol.3

# PARTNERS Report

証券コード:3183

## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

医療機器販売業界のリーディングカンパニーを目指し、ウイン・パートナーズグループとなって一年が経ちました。初年度はグループ経営体制を構築するとともに、事業子会社である(株)ウイン・インターナショナルとテスコ(株)の連携を強化し、営業活動を積極的に行いました。2014年3月期の業績は当社グループの専門分野である心疾患の患者数の増加や、身体的負担が少なく早期回復が見込める低侵襲治療の需要が高まり、売上高、利益ともに期初予想を上回りました。また、2014年5月29日にはジャスダックスタンダードから東証第二部に市場を変更いたしました。これもひとえに株主の皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。超高齢化を迎える日本で、医療現場になくはならない企業として、これからも真摯に邁進してまいりますので、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 秋沢英海



## おかげさまで、ウイン・パートナーズは 東京証券取引所 市場第二部に上場いたしました。

### 連結財務ハイライト (2014年3月期 連結累計期間)

売上高	49,826 百万円
営業利益	2,479 百万円
経常利益	2,499 百万円
当期純利益	1,840 百万円
1株当たり当期純利益	128.22 円

### ウイン・パートナーズグループ



WIN A BETTER QUALITY OF LIFE  
WIN PARTNERS



WIN INTERNATIONAL



テスコ  
TECHNICAL SERVICE CORPORATION

## Q-1 2014年3月期(第1期)の業績についてお聞かせください。

当期の連結業績につきましては、売上高498億円、経常利益24.9億円となり、期初予想の455億円、22.8億円を上回りました。経営統合前と後で直接比較はできませんが、前期の2社合算値と比べても2桁の増収増益を達成することができました。

売上高につきましては、高齢化や生活習慣の変化等を反映して症例数が増加したことから、販売数量が伸長し、すべてのセグメントにおいて増収を達成することができました。特に心臓律動管理関連においては、MRI対応型ペースメーカー等の新製品の寄与もあり好調

に推移しました。また、大型機器は一級建築士事務所登録の強みを活かしてハイブリッド手術室の導入支援等を行ったことに加えて、消費税増税前の需要が下支えし、大幅増収となりました。売上高が計画を上回る一方、販売管理費は計画通りに推移したため、経常利益も期初予想を上回ることができました。なお、当期純利益は経営統合による負ののれん発生益等を特別利益として計上したため、通常より数値が高くなっております。

## Q-2 具体的な取り組みについて教えてください。

当期は、事業子会社である(株)ウイン・インターナショナルとテスコ(株)の営業ノウハウや情報を共有し、営業活動を強化しました。特に患者数の増加策や新しい治療法などの導入の提案および支援を積極的に行った結果、顧客医療施設における症例数が増加し増収に寄与しました。2013年10月には大動脈弁狭窄症の低侵襲治療法である「TAVI」(タビ:経カテーテル大動脈弁留置術)が保険適用となり、当社グループの顧客施設

でも治療が開始されました。難易度が高い手技であるとともに、特別な設備や手術を行うための施設認定を受ける必要があるため、医療施設に対して様々な支援を行いました。この結果、既存顧客の深耕だけでなく、新規顧客の獲得も進みました。前年に開設した山口出張所、札幌営業所がフル稼働したこと、人員を強化した高松営業所が県内シェアを伸ばしたことも業績に寄与しました。

## Q-3 経営統合効果について教えてください。

2014年4月に営業エリアが重複する福島県の営業所を統合しました。経営の合理化とエリアマーケティングの強化により、東北地域におけるマーケットシェアの拡大を図ります。また2015年3月期より新たな取り組みとして、一部の製品でメーカーからの一括買取を開始いたします。在庫リスクを当社グループが負うことで、仕入コストの低減が期待できます。経営統合によって販路が拡大し、多様な仕入方法が可能になりました。業績への影響はまだ軽微ですが、段階的に買取規模を拡大し、中期的には利益率の改善や価格競争力の強化につなげていく考えです。



## Q-4 2015年3月期(第2期)の展望をお聞かせください。

2015年3月期は、診療報酬改定と消費税増税というマイナス要因があります。これらを踏まえて売上高510億円(前期比2.4%増)、経常利益25.7億円(同3.2%増)を見込んでおります。増税分は価格転嫁を目指しておりますが、2年に一度の保険償還価格(公定価格)の引き下げにより、当社グループが取り扱う製品の販売価格も平均5.7%程度下落する見通しです。また、診療報酬の改定は顧客である医療機関にも影響を及ぼすと思われます。医療費抑制策の一環として医療機関に対する規制が厳しくなるため、今後は病院の経営方針の見直しや、病院機能の転換や機能の強化を迫られる医療機関が増加すると考えられます。

## Q-5 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

超高齢化社会を迎え、医療費抑制策の影響を受ける医療機器販売業界では今後、再編や淘汰が加速することが見込まれます。1961年に国民皆保険制度が始まって以来、販売業者数は増加してきましたが、創業者が引退し世代交代を行う時期を迎え、今後は事業承継問題が顕在化すると考えられます。我々はこのような状況をビジネスチャンスと捉え、傘下企業を増やし、グループシナジーを追求して企業価値の最大化を推進し

当社グループはこのような顧客の変化に合わせて適切な提案や支援を行うとともに、新しい医療技術や医療機器を積極的に導入し、新規顧客開拓や既存顧客の深耕を推進してまいります。特に虚血性心疾患関連(PCI)、心臓律動管理関連(CRS)、心臓血管外科関連(CVS)の3分野を強化し、これらの心疾患領域におけるマーケットシェアの拡大を目指します。価格下落の影響を販売数量増で吸収するとともに、仕入のコストダウンや効率的なグループ経営により、増収増益を目指します。ただし、当期純利益は前期の経営統合に伴う特別利益が消失することから、16.5億円(前期比9.9%減)となる見通しです。

てまいります。目標を達成するため、持株会社体制に移行し、またこの度、ジャスダックから東証第二部に市場を変更いたしました。

株主の皆様には適切な情報開示と、配当性向30%以上を目標に継続的な利益還元に努めてまいります。今後も引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当期 2013年4月1日～ 2014年3月31日
売上高	49,826
売上原価	43,431
売上総利益	6,395
販売費及び一般管理費	3,915
営業利益	2,479
営業外収益	20
営業外費用	0
経常利益	2,499
特別利益	378
特別損失	107
税金等調整前当期純利益	2,770
法人税等	929
少数株主損益調整前当期純利益	1,840
当期純利益	1,840

## 連結包括利益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当期 2013年4月1日～ 2014年3月31日
少数株主損益調整前当期純利益	1,840
その他の包括利益	10
包括利益	1,850

## Point

## 当期純利益

経営統合に伴う負ののれん発生益196百万円及び段階取得に係る差益180百万円を特別利益として計上したため、当期純利益は1,840百万円となりました。

## Point

## 売上高・経常利益

経営統合後の初年度としてグループの経営基盤を整備し、低侵襲治療及び心臓治療に特化したウイン・パートナーズグループとして営業活動を強化した結果、売上高、経常利益とも期初計画を上回りました。

## 主要セグメント概況

## ● PCI(虚血性心疾患関連) ●

患者数の増加策の提案等により、心筋梗塞などの低侵襲治療で用いられる薬剤溶出型ステント(DES)、P TCAバルーンカテーテル等の販売数量が伸びました。

売上高前期比

+6.7%



## ● CRS(心臓律動管理関連) ●

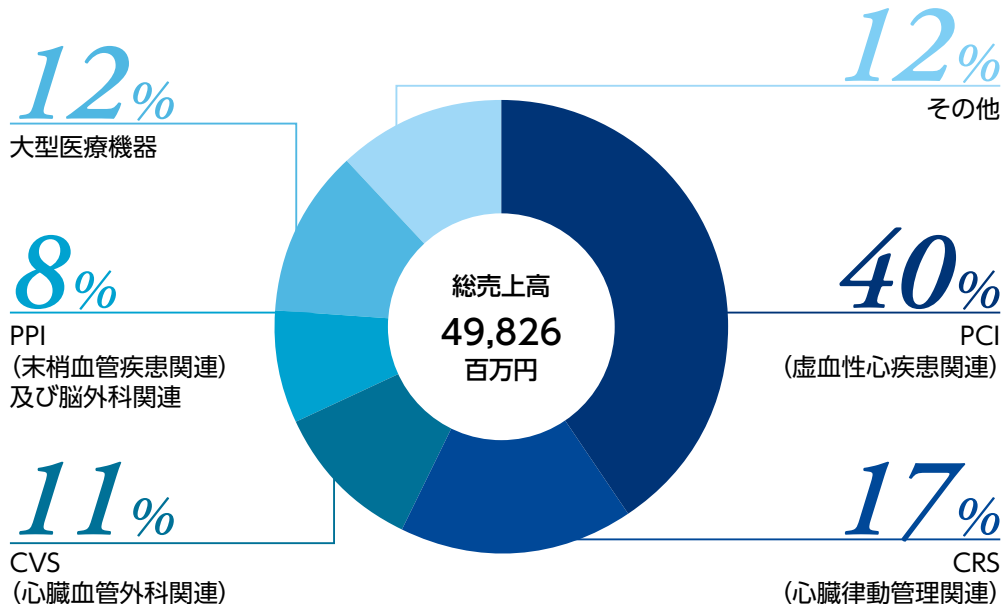
新規顧客の開拓やMRI対応型のペースメーカ(PM)の拡販に注力した結果、販売数量、金額ともに前期から大きく伸ばいたしました。PM以外の、ICD、CRTD、アブレーション等も20%前後の高い水準で伸ばしました。

売上高前期比

+23.4%



## セグメント別売上高構成比



## ● CVS (心臓血管外科関連) ●

大動脈瘤の低侵襲治療法であるステントグラフト内挿術の普及による、症例数の増加を見込み、認定施設に対する新規顧客開拓活動を積極的に行ったことなどにより関連商品の販売数量が伸びました。



ステントグラフト

売上高前期比

+18.2%

※売上高前期比は、(株)ウイン・インターナショナルとテスコ(株)の2013年4月～2014年3月の売上高の合算値と比較して算出。

## ● 大型医療機器 ●

2013年5月に一級建築士事務所登録を行い、構想・設計段階からの営業活動を行うことにより受注件数が増加しました。さらに、消費税増税前の駆込需要の影響もあり、前期に比べ大きく売上が伸びました。

アンギオ装置  
(血管造影装置)

売上高前期比

+72.6%



## 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	当期 2014年3月31日
<b>資産の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>23,922</b>
現金及び預金	8,563
受取手形及び売掛金	13,798
商品	1,124
未収入金	281
繰延税金資産	128
その他	27
貸倒引当金	△0
<b>固定資産</b>	<b>3,011</b>
有形固定資産	2,062
無形固定資産	308
投資その他の資産	641
<b>資産合計</b>	<b>26,934</b>
<b>負債の部</b>	
<b>流動負債</b>	<b>15,326</b>
支払手形及び買掛金	14,276
未払金	173
未払法人税等	500
賞与引当金	209
その他	167
<b>固定負債</b>	<b>374</b>
<b>負債合計</b>	<b>15,701</b>
<b>純資産の部</b>	
<b>株主資本</b>	<b>11,152</b>
資本金	550
資本剰余金	2,272
利益剰余金	8,867
自己株式	△537
その他の包括利益累計額	80
<b>純資産合計</b>	<b>11,233</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>26,934</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当期 2013年4月1日～ 2014年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,892
投資活動によるキャッシュ・フロー	△854
財務活動によるキャッシュ・フロー	△355
現金及び現金同等物に係る換算差額	—
現金及び現金同等物の増減額	1,682
現金及び現金同等物の期首残高	4,611
株式移転による現金及び現金同等物の増加額	2,269
現金及び現金同等物の期末残高	8,563

## Point

## 営業活動によるキャッシュ・フロー

純粋な営業活動で得られた収入が3,934百万円ある一方、法人税等を1,048百万円支払ったことなどにより2,892百万円の収入となりました。

## 投資活動によるキャッシュ・フロー

北関東営業所や郡山営業所の移転などに伴う有形固定資産の取得による支出が828百万円あったことなどにより854百万円の支出となりました。

## 財務活動によるキャッシュ・フロー

連結子会社において前期の配当金を支払ったことにより355百万円の支出となりました。

## 現金及び現金同等物の期末残高

期首より1,682百万円増加し、8,563百万円となりました。

## 連結財政状態

総資産

26,934百万円

純資産

11,233百万円

自己資本比率

41.7%

1株当たり純資産

782.58円



## ウイン・パートナーズ 2015年3月期業績予想(連結)

売上高	51,000 百万円	当期純利益	1,659 百万円
営業利益	2,573 百万円	1株当たり配当金	35.0 円
経常利益	2,578 百万円		

※予想値は2014年5月14日の公表値

## 当社を取り巻く事業環境

日本では保険診療にかかる医療の価格を国が定め、2年に1度見直しが行われております。当社が取り扱う医療機器の多くも保険診療で使用されており、本年4月に価格の改定が行われました。医療費の適正

化のため、全般に価格は引き下げられる傾向にあります。当社グループの主要取扱製品の販売単価も低下する見通しであり、2015年3月期の売上高への影響は、▲5.7%と推定されます。

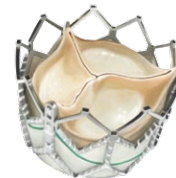
## 主要取扱製品の販売価格の低下に対する対策

## (1) 循環器領域におけるドミナント戦略

成長分野である心臓律動管理関連(CRS)、心臓血管外科関連(CVS)に人員を集中投入し、MRI対応ペースメーカーやTAVI等の高付加価値製品の拡販に注力します。また、CRS、CVSに虚血性心疾患関連(PCI)を加えた循環器領域においてマーケットシェアを拡大し、販売数量拡大により、価格の低下をカバーします。

## (2) 新購買戦略

これまでにない規模とスキームでPTCAバルーンカテーテルなどの一括買取を行います。在庫リスクを取ることで、利益率の改善を図ります。



TAVI用生体弁

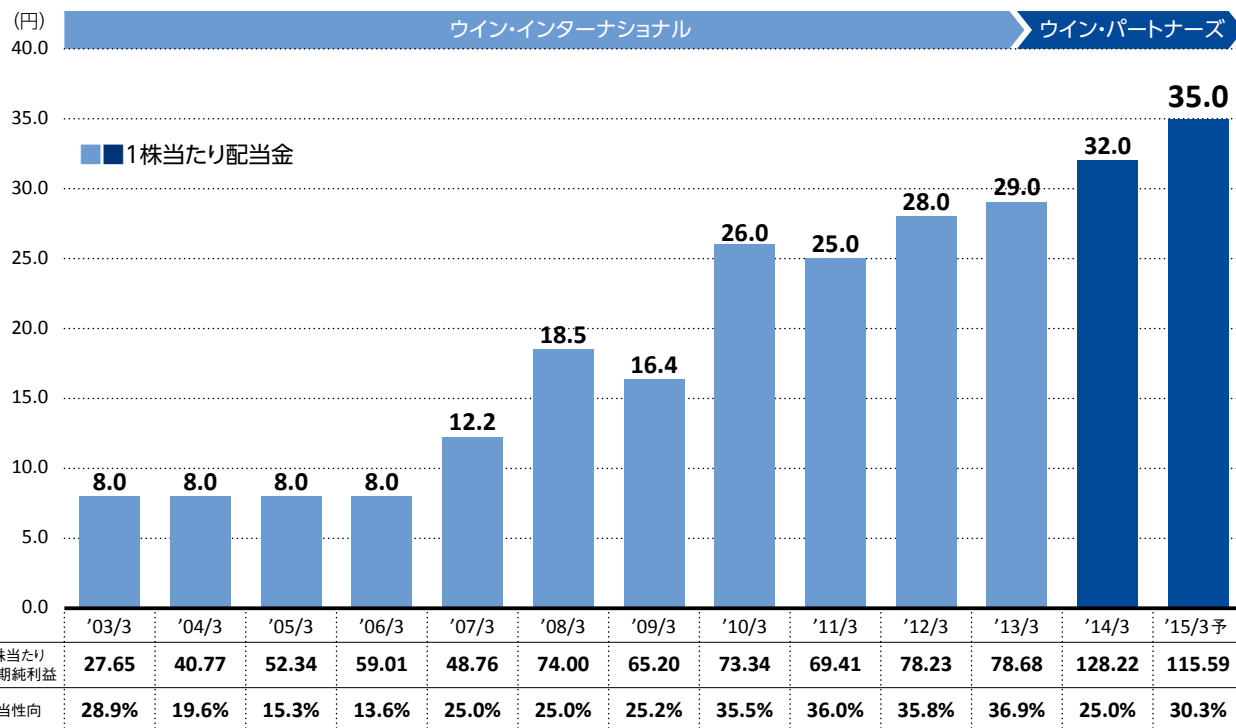
(経カテーテル大動脈弁留置術用生体弁)

※2013年10月より保険適用

PTCAバルーンカテーテル



## ウイン・インターナショナル及びウイン・パートナーズ配当実績



### IRカレンダー



## 会社概要

(2014年3月31日現在)

社名	ウイン・パートナーズ株式会社
英文社名	WIN-Partners Co., Ltd.
事業内容	医療機器販売等を行う会社の経営管理及びそれに付帯又は関連する事業等
本店所在地	東京都台東区台東四丁目24番8号
グループ会社	株式会社ウイン・インターナショナル テスコ株式会社
設立年月日	2013年4月1日
資本金	5億5千万円
従業員数	372名(連結)

## 役員

(2014年6月27日現在)

代表取締役社長	秋沢 英海
取締役	秋田 裕二
取締役	三田上 浩美
取締役	村田 裕可
社外取締役	間島 進吾
常勤監査役	中田 陽一
社外監査役	神田 安積
社外監査役	菊地 康夫

## 株式の状況

(2014年3月31日現在)

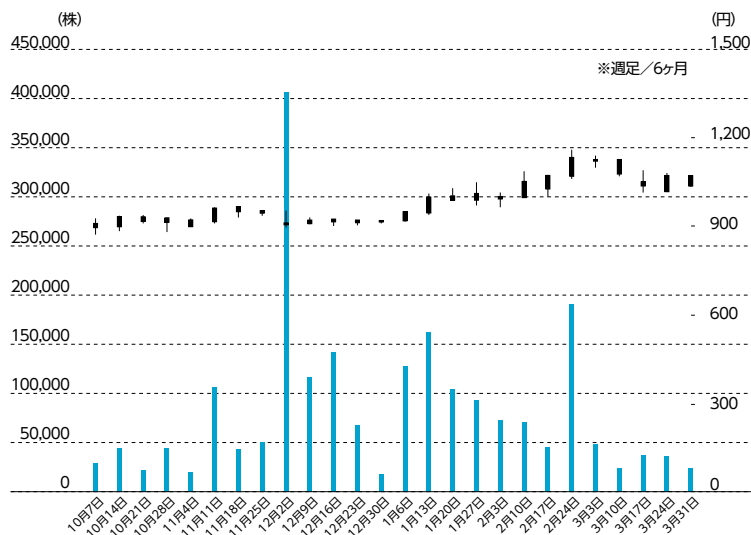
発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式の総数	15,251,655株
株主数	3,161名

### 大株主

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
有限会社オフィスA	3,300,000	23.0
ビービーエイチフォーフィデリティ ロープライズドストックファンド (プリンシパルオールセクターサブポートフォリオ)	1,487,000	10.4
秋田裕二	1,205,945	8.4
株式会社キエマ企画	945,500	6.6
グリーンホスピタルサプライ株式会社	800,000	5.6

(注)持株比率は自己株式897,433株を控除して計算しております。

### 株価及び出来高の推移(2013年10月～2014年3月)



## 株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	期末配当金 3月31日
公告の方法	電子公告 <a href="http://www.win-partners.co.jp/koukoku/">http://www.win-partners.co.jp/koukoku/</a> やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先・送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711(フリーダイヤル)

※ 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則として口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。



WIN A BETTER QUALITY OF LIFE

**WIN PARTNERS**

**ウイン・パートナーズ 株式会社**

〒110-8558 東京都台東区台東4-24-8  
TEL: 03-6895-1234

[www.win-partners.co.jp](http://www.win-partners.co.jp)



WINはQOL推進企業です